



レース参戦で見えてくる、愛車との新たな付き合い方

ジムニーの楽しさ 再発見!

“モータースポーツ”という言葉聞いて、ジムニーとそれを結びつけるのは感覚的に難しい。サーキットを疾駆するフォーミュラマシンであれば「いかにも」という感じで想像しやすいだろうが、軒先の車庫にいつもチョコンと置いてあるジムニーでは“モーター”も“スポーツ”も似つかわしく思えない。だが自動車競技が即ち“モータースポーツ”だとすれば、無改造のジムニーも立派なレースマシンになれるはず。我々がジムニーには、無限の可能性が詰まっているのだ。そこで前号に引き続き、ジムニーでモータースポーツに挑戦することの楽しさ、魅力についてお伝えしたい。

取材協力：NASC SAND WORKS PROJECT



“観るモータースポーツ”から“参加するモータースポーツ”へ。日本各地でいま、自動車レースの普及活動が盛んに行なわれている。国際格式のFIAやJAF規格をはじめとする本格的なレギュレーションを持つものから、ローカルルールに基づいたいわゆる“草レース”まで、規模の差こそあれ自動車を用いた競技の数は想像以上に多い。もちろん、ジムニーで参加することが可能なレースだって、両手両足の指を折っても全然足りないほど開催されている。

ジムニーで出場する競技を挙げるなら、クロスカントリートライアルが代表的なものと言えるだろう。4WDならではの悪路走破性能を駆使するトライアルレースはジムニーの本質を追究した内容であるし、タイトなコーステープの間を縫うように走る緊張感や、そこで要求される運転技術の高さなど、ギャラリーからすれば限りなく地味な光景ではあってもドライバーにとっては面白さ満点のレースなのだ。

一方、時間を競う、つまりスピード系競技の魅力は時間という“数字による完全決着”であ

ることがその多くを占めるのではないだろうか。それは時に単独走行で計測したタイムであり、時にはヨ～イドンの混走で競り合った際のタイムである。どちらにも共通して言えるのは、勝者のタイムがいちばん小さな数字で表されるということ。自分の実力がライバルに比べどのようなのか、もっとも明快で理解しやすい方法であるゆえ、面白さもストレートに感じるができるというわけだ。減点法によるポイント採点式のトライアルでも、SSと呼ばれるタイム計測セクションが設けられ、同ポイントの選手が複数存在する場合にはこのSSのタイムによって順位を決着するのが一般的。トライアルの選手であっても「SSを走るときがいちばんヒートアップする」と意気込む姿だって珍しくない。勝ち負けに関して言い訳が通じない、自らの技量の計測。やはりスピードこそが、モータースポーツのスタンダードなのである。

さて、そんなスピードレースにも様々なスタイルが存在しており、バリ～ダカのように国境をいくつも跨ぐ国際ラリーや前号で紹介した全

日本ダート耐久シリーズなど、ライセンスが必要で素人がいきなり手を出せないものも多い。そこで注目したいのが、ビギナー向けに開催されているレースだ。今回取材でお邪魔したのは、全日本ダート耐久シリーズでも知られるNASCが主催した「NASCスーパートライアル」。この競技のユニークなところは、グラベル（未舗装路）とターマック（舗装路）を組み合わせ、さらにヒルクライムまでもコースに組み込んでいる点だ。つまり、運転技術もマシンのセッティングもオンロードやダートに向けた極端なものではなく、トータルでのバランスが求められるというわけである。同様の主旨で開催されている競技としては、JCJ（日本ジムニークラブ）が主催する「トライアルクロス」も知られており、やはりジムカーナセクションやクロスカントリーの総合力を要求されるタイムレースとして開催以来、高い人気を獲得している。

では「NASCスーパートライアル」にスポットを当て、スピード系複合競技ならではの面白さについて検証してみることにしよう。

